

ワカメの根の「メカブ」に乳がんを予防し、がん細胞の増殖を抑制する作用があることが、名古屋大医学部第二外科（名古屋市昭和区）の舟橋啓臣講師らの研究で分かった。十四日から兵庫県で開かれる「日本がん予防研究会」で発表する。動物実験では国内で広く使われている抗がん剤よりも高い効果が得られており、家系に乳がんの患者を持つ人には朗報と言えそうだ。

ワカメの根で乳がんを予防

を含むワカメをエサに混ぜるとがん細胞が自死する「アポトーシス」と呼ばれる現象が起きることなどを確認し、医学誌などに発表してきた。動物実験では乾燥ワカメの粉末を一％と五％の割合でラットのエサに配合。ともに腫瘍（しゅよう）の増殖を抑える効果が見られた。しかしこれを体重五〇キの人の食事に変算すると一％でも四十％にもなり、人が日常的に摂取する量としては多すぎるのが課題だった。

舟橋講師らはワカメよりも



舟橋啓臣講師

ヨード、がん細胞に作用

ヨードを多量に含むメカブに注目、メカブ粉末を水に溶かした抽出液を作った。乳がん細胞の培養液に一ミリ中約〇・〇〇七％の濃度でメカブを加えたところ、時間の経過とともにアポトーシスを起こす細胞が増え、九十六時間後には五六・五％の細胞が自死。名大講師ら研究

メカブの濃度を二倍にすると同六三・三％の細胞が死滅。これは国内で最も頻繁に使われている抗がん剤を使った場合よりも高率だという。

さらに、予防効果を確かめるため、水一リ中にメカブ粉末六％、三％、一・五％を溶かした三種の溶液をラットに飲ませ、一週間後に乳がんを誘発する薬を投与。何も入れない水を飲んでいたらラット群十二匹は十三週ですべてが発がんしたのに対し、六％では十四週まで一匹も発がんせず、一・五％では二十四週まで発がんが全くみられなかった。メカブの濃度が少ない群で、なぜ最も高い抗がん作用が得られたのかは不明だという。メカブの成分のうち、ヨードが深く関連していると思われるが、詳しい成分の分析を急いでいる。

舟橋講師は「メカブは自然食品で人体にも安全。乳がんができる前でも、後でも効果はある。薬剤の予防的投与が日本では認められていないだけに、役立つのではないかと話している。」